

# 大岩3区 区民だより

発行責任 区長 渡井瀧男  
広報部 松田寿久、渡井美哲  
鈴木利広、森茂栄子  
湯元洋子



ご挨拶

区長 渡井瀧男

皆様方におかれましては、家族共々お健やかに新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、アテネオリンピックにおける日本選手の大活躍で国内を大いに湧かしてくれました。また、北朝鮮に拉致された家族の帰国等々の明るいニュース。逆に自然災害の多い年で、真夏の連日の猛暑、秋には台風の連続的な日本上陸。特に22号台風は静岡県東部地方に大きな被害をもたらしました。さらには新潟県を襲った中越地震、更には年末に起きたスマトラ沖大地震など暗いニュースも多くありました。被災された皆様には心からお見舞いを申しあげると共に、一日も早い復旧と復興をお祈

りする次第です。なお、新潟県中越地震の際には、区民の皆様方には善意ある義援金を早期にいただきありがとうございました。富士宮市区長会は十一月一日、市社会福祉会・日本赤十字社を通じて被災された皆様の手元へ届けて頂きました。

さて私も、時田前区長様の後任の役をお引き受けしましてから早9ヶ月が経ちました。この間、運動会を始め夏祭り、エコ文化祭等々各種の諸行事を通じ、区民の皆様や各役員の皆様方の力強い努力と協力をいただき深く感謝致しております。これからの区の行政においても皆様の先頭に区民役員一体となつて、住んでよかった大岩三区に「を目指し頑張つてゆきたい」と思います。

最後に区民皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ本年最初のご挨拶とさせていただきます。



## 防災訓練



昨年十二月五日に、大岩3区でも防災訓練が行われました。恒例の炊き出し訓練のほか、今回は富士常葉大学の皆さんに、新潟中越大地震のボランティアに行った経験などを、スライドを用いて話していただきました。また、簡易ランタンストーブの作り方なども実演してもらいました。

写真は、その時の様子です。空き缶と食用油、アルミホイールだけでできるランタン兼ストーブには、みんな驚きました。



半壊、全壊が多い地域でも、ある構造をした家は全然被害がなかった、など貴重なスライドも見せてもらい参考になりました。

常葉大学だけでなく、富士宮市でも、また県でも多くの方が、新潟県にボランティアにでかけました。行った方々の生の感想をそのまま掲載します。(富士県行政センターなどの職員の感想)

「今回の派遣で一番感じたことは、災害時には地域の結束がなにより不可欠である、ということ。地元町内会のリーダー達の強いリーダーシップで地域がまとまっていた印象があります」

「最終日に避難所の責任者から 静岡県さんがきてくれて大変助かりました」と感謝されつれしかった。

「被災地では、ボランティアも風呂のないテント生活となりました。普段は、なんとも思わないパンやお結びが味気なく、暖かいご飯や温かい味噌汁がとてもありがたく感じられました」

「避難所支援には、生活者の立場での共感が極めて重要だと感じた。想像力がものをいいいます」

静岡県も他人事ではありませぬ。ボランティアとその受け入れ側が事前に用意しておきべきモノ、が今回のボランティア達の反省がま

とまっておりますので掲載します。

一 東海地震では最低一ヶ月以上の避難生活を覚悟。

一 電気の復旧まで三日から七日を覚悟。電気を使わない懐中電灯、ランタン、ラジオ オは必須。常備薬、ペットのえさも忘れずに。

一 自転車やバイクの備えもあると機動力あり。知らない土地でボランティアする場合、車が使えるところではカーナビは助かる。

いずれにしても今後は、単に恒例の避難訓練というだけでなく、いろんな危機に際しての対応という観点から、日ごろから、個人で、隣保班で、町内で、また区で、備えておくことが必要になるでしょう。



## 「区内の人々の今年の抱負」

大岩3区の各層の人々にインタビューし、若い人たちの今年の抱負を一言もらいました。

今年は受検の年なので特に勉強に頑張りたいと思っています。部活も後半年もないけれど最後の試合に向けて頑張りたいと思います。

て頑張りたいと思っています。今年は自分の道を決める大事な年だと思っているので、一年間を大切に過ごしたいと思っています。

3 町内 鈴木秀明(宮北高二年)

今年の私の抱負は自分の頭で考え決断し、責任ある行動ができるように自律することです。

4 町内 旗持 静香(今年成人式)静岡県立大学経営情報学部2年生

部活と勉強の両立。最上級生になり、部活で先輩を引っ張っていききたい。時間を有効に使い、自分の趣味を楽しむ時間も作りたい。

4 町内 根南中二年 佐野晴菜

今年中学生になるので勉強や運動をがんばりたいです。4 町内 富士見小六年中岩千明

先ず家族共々健康であること。今一番の趣味であるゴルフで80をきることに。

3 町内 若林文夫(S15生)

今年は、書道と勉強を両立させて自分の行きたい志望大学に受かるよう一杯の努力をする。

4 町内 岩見亜紀(宮北高二年)

小中学生は、勉強と部活、そして高校、大学のみなさんは、進路を意識したり自分自身の成長を決意しているようです。老若男女の皆さん、今年一年がんばりましょう。



新年エッセイ

「こころの継承」

3 町内 鈴木利広

私はこの地でお茶の自園、自製、自販を営んでいます。年頭にあたり、私がこれまでお茶づくりを通して学んだり、考えたりしてきたことを書かせていただきます。

昨年十一月に静岡市内で「世界お茶まつり」が開催され、期間中十二万人の来場者を楽しませて閉幕しました。お茶の試飲や、近未来型喫茶「ロボットカフェ」などで行った返していました。私も日本茶インストラクターとして、お茶についてお客様とお話ししながら、充実した時を過ごせました。

六年前、静岡県茶生産青年団の団長を勤めさせていたときに、この日本茶インストラクター制度の話が持ちあがり受験させていただきました。幸いに合格してインストラクター一期生として、以来、仕事の合間を縫いながら一般の人対象にお茶教室の開催や、学校への総合学習でのお手伝いなど自分のできることをして参りました。

また三年前、静岡県より「持続性の高い農業生産方式の導入」という成果が認められて「エコ・ファーマー」に認定していただきました。これは事前審査が厳しく、第

3 者がこと細かく調査して評価結果を出して認めるのでなかなか意味があります。

これらのことができたのも私はすべて「土」と「伝統」のおかげであると思っております。

「土」については、肥沃な大地と有機質が大切で、私たちは毎年二年間かけて作り上げた完熟堆肥で土作りをします。

これができるのも私の祖父の代からの研究が身を結んだものと考えております。これが「伝統」です。

先日、農園のことで父と激しくぶつかってしまいました。自分も結婚をして三人の子供の父親となり仕事を任されています。付き合いも多くなり知識も豊富になりました。しかしそれで知らぬうちに鼻が高くなってしまっていました。父の心を深く感じるには時間がかかりました。

このようなことを通じて、私も「エコ・ファーマー」や「日本茶インストラクター」の認定をいただいているが、まさにそれは、大地と伝統に支えられているからであると再度深く心に刻んだことでした。

今年は、もっと深くお茶を知りたい。古い時代の手の込んだ技術や方法を知り、それを新しい形で表現してみたい。そんな気持ちで資料も集

め始めました。

山林に覆われた自然の中で、玄関を開けると一目にして畑全体が見渡せて、裾のほうには小川が流れていて段をなしている。田んぼを耕し秋には収穫。ヤギを飼いなから自給自足の生活の中で三人の子供が成長する、というのが私の夢です。

私を生み出してくれたこの大地と伝統の中で、感謝しつつ、四百年のお茶の歴史を待つ富士宮市の茶業をますます繁栄させていきたいと思ひます。(投稿)

富士見小コミュニティ紙のプロジェクト

富士見小コミュニティで行っているこのプロジェクトを知っていますか？簡単に言えばリサイクル運動なのですが、新聞紙とその他の紙ごみをリサイクルに出し、1kgにつき八円程度の

収入を得て、地域コミュニティのために使ってゆく運動です。

大岩は毎月の第2月曜日が新聞・ダンボール、第3月曜日が雑誌等の回収日にあたっています。今までは子ども会やPTAが資金集めのためにやってきたのですが、業者に毎月決まった日に回収してもらいそのお金をもらうことができるようになりました。

これは富士見小PTA会長の望月さんの提唱で実践されているものです。昨年の四月から実施して

別表のようにだいぶ定着してきました。特に昨年十二月は資金を、中越地震の義捐金にしようということで、児童も協力して資源回収した、ということで大部集まりました。みなさんもご協力ありがとうございました。

このままでいくと一年間で百万円程度集まると思いますが、その使いみちについて

てもコミュニティで話し合われます。今後ともご協力をお願いします。

4 月	2910kg
5 月	1200kg
6 月	3740kg
7 月	2590kg
8 月	3050kg
9 月	3970kg
10 月	1950kg
11 月	2180kg
12 月	6840kg

右の表は、大岩3区 世帯数875世帯の平成16年4月からの実績です。

他地区との比較について

回収総重量を世帯数で割った数字は、他地区(富士見ヶ丘・阿幸地・万野と三園平・ひばりが丘の2地区と比べて、毎月少し低かったのですが、この十一月、話し合っで、中越地震の義捐金にしよう、児童も回った、ということ飛躍的に実績が伸びました。

大岩3区児童遊園開設

みなで回れば、このように伸びるのなら、みんなが協力して回って回収し、これをつめができればいいですね。すると今までの、PTAや子供会活動とあまり変わらなくなりますが、やはり自発的に行うということがポイントですね。それには、事務局としても、常に数字でわかるように周知する必要があります。良いお知らせがあら「コミュニティ」のメンバーにお知らせください。

このたび大岩3区住民の要請により児童福祉増進のため児童遊園を開設することができました。場所は大岩3区区民館入口南側です。遊具は鉄棒・ブランコ・滑り台の3種類です。ケガのないよう大いに活用して下さい。

大岩人物ふぁいる

長谷川正季さん(4町内)

仕事は富士養鱒場の工場長である。夏祭りに三子連が行う「鱒つかみどり」



の際に安く鱒を提供してくれたこともあった。現在、工場長を勤める富士養鱒場(淀師)は、県下一どころか、日本一の取り扱い量。富士山のめぐみの水をふんだんに使い、年間2000トンの取り扱い量があるという。

区では、以前、環境整備委員もして、そのとき、あまりに捨てられるモノが多いのに気づき、それらを捨てずに資源として生かすことはできないか、という願いから「大岩エコ祭」を立ち上げた。毎年、フリーマーケットの場をこのエコ祭りで提供している。もちろん、フリーマーケットだけでなく、子ども会や老人会など様々な団体に働きかけて、区の一大行事にした。今年も第6回を11月末の土曜日に行う予定だ。

趣味も幅広い。アケビのツルを取ってきてバスケットなどを作ったり、ギター演奏(歌唱つき)もエコ文化祭の時披露してくれた。ハーモニカ演奏もできる。また絵(水墨画)や書も玄人はだして、大作も手がける。水墨画は毎回エコ文化祭にも出品してくれているが、今回「第17回富嶽ビエンナーレ」(静岡県の総合美術展で国内外から作品が集まる)でも選ばれ、現在(1月30日まで)県立美術館に展示されている。中国でも展覧会に出品したことがあるそうだ。

現在展示中の作品「青羅桂林」は、5ヶ月毎朝4時におきて描いた大作。

ボーイスカウト活動にも12年間ほどかかわっている。

将来の夢はという質問に「将来は、ぜひ絵を習いたい子供たちに、絵を教えたい」との答えが返ってきた。

(写真は長谷川さんのアトリエ。ご自分の絵を背景に)